

徳島県立池田高等学校 100年の歴史

- 大正 11年 4月 徳島県立池田中学校として創立
- 昭和 17年 6月 池田中学校校歌制定
- 昭和 22年 2月 校章制定
- 昭和 23年 4月 学制改革により徳島県池田高等学校と改称
全日制男子普通科及び定時制設置
- 昭和 24年 4月 男女共学制実施
徳島県三好農林高等学校を併合
全日制に普通科、農業課を設置
定時制は普通科、農業課、家庭科
佐馬地分校（農業科・家庭科）設立
祖谷分校設立
- 昭和 25年 4月 全日制に商業化・家庭技芸科併置
祖谷分校東祖谷教室（農業科・家庭科）設立
- 昭和 26年 2月 池田高校校歌制定
(作詞:合田公明氏、作曲:永井潔大阪音楽大教授)
- 昭和 27年 4月 農業科が三好農林高等学校として再独立
- 昭和 31年 4月 徳島県立池田高等学校と改称
- 昭和 33年 3月 三好分校廃止
- 昭和 33年 4月 三名分校廃止
- 昭和 35年 3月 校旗制定 佐馬地分校廃止
- 昭和 39年 3月 中内体育館完工
- 昭和 40年 4月 祖谷分校、東祖谷新築校舎に吸収
- 昭和 41年 3月 体育館完工
- 昭和 44年 4月 商業科、被服科廃止
本校は普通科、分校は農業科となる
- 昭和 46年 4月 理数科設置、定時制中心校に衛生看護科新設
- 昭和 48年 8月 プール完工
- 昭和 49年 5月 武道場完工
- 昭和 50年 9月 桜陵会館完工
- 昭和 58年 9月 学校食堂開設
- 昭和 63年 12月 弓道場新築工事完工
- 平成 2年 12月 新体育館完工
- 平成 10年 4月 定時制中心校が厚生科（衛生看護科）の募集を停止
- 平成 15年 4月 定時制祖谷分校、農業科の募集を停止
- 平成 17年 3月 定時制祖谷分校閉校
- 平成 24年 4月 新学科「探究科」設置
- 平成 29年 4月 三好地域3高校再編
池田高校辻校、同三好校開校
- 令和 2年 4月 緊急事態宣言に伴い、臨時休校（～5/25）
- 令和 4年 5月 創立100周年を迎える



墨書 竹内 陽来（池田高等学校 書道部）

徳島県立池田高等学校創立100周年
さらなる飛躍の100年へ

徳島県立池田高等学校は、大正11年に徳島県立池田中学校として創立され、今年、創立100周年を迎えました。学制改革やさまざまな社会情勢の変化を受け、学校名の改称や、男女共学制の実施、学科の再編、分校の新設や統廃合が繰り返されました。2万5千名余りの卒業生を輩出した池田高等学校の歴史を、創立100周年記念誌を引用しながら振り返るとともに、11月13日に行われた記念講演の様子や記念事業をご紹介します。

この100年という長い歴史の中には、太平洋戦争の影響を受け、郷土防衛隊の食糧秩倉庫として使用されるため図書館が閉館されたり、学徒動員が実施されたこともありました。

戦後から昭和中期にかけては、時代の大きな変化に呼応するように分校を設立し、男女共学制が取り入れられ、普通科、農業科、商業科、家庭技芸科などの学科も次々に再編されていきました。

そして昭和40年代に入り、体育館、プール、武道場など

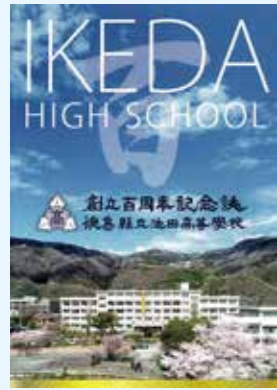
の運動設備が整えられていく中で、薦監督率いるさわやかイレブンが第46回選抜高等学校野球大会に初出場し、準優勝を果たしました。また、レスリング部、ハンドボール部、山岳部なども高校総体に出場し、その活躍は現在にも受け継がれています。

昭和57年夏の第64回全国高

等学校野球選手権大会、昭和58年春の第55回選抜高等学校野球大会では夏春連覇の大躍進で、薦監督は甲子園の名物監督と言われるようになり、池田高校は、校歌とともに全国に名を馳せることとなりました。

平成になると、レスリング部、ハンドボール部、山岳部に加え、弓道部も徳島県代表として全国大会に出場するなど実力を発揮します。

そして、平成24年に探究科が新設され、現在の全日制（普通科・探究科）、定時制（普通科）を有する学校となりました。平成29年には地域3高校の再編が行われ、池田高校は本校となり、辻校、三好校が開校されました。クラブ活動も盛んで、レスリング部が平成30年・令和元年には国民体育大会で第3位になるなどの活躍を見せ、また文化活動にも好成績を残しています。



創立100周年記念誌を作成

創立100周年
記念事業

全国的にも有名な池田高校の校歌を阿波池田駅で流せないか。池田高校と同窓会の桜陵会、三好市がJR四国に要望し実現した。往年の野球ファンにはおなじみの校歌が、列車の発着メロディとして構内に響いている。毎朝の通学で駅を利用する生徒たちはもちろん、観光客を温かく迎える。



記念Tシャツはウェブで販売もしている

池田高校 100周年記念アイテムショップ



新調された体育館の緞帳



創立100周年記念講演会
池高野球部レジェンド達の集い
「蔦監督・池高を語る」

左から、司会を務める保岡栄二さん、さわやかイレブンで昭和49年春準優勝の主将・森本秀明さん、昭和54年夏準優勝の主将・岡田康志さん、同投手・橋川正人さん、昭和57年夏優勝の主将・窪靖さん、同投手・畠山準さん、昭和58年春優勝の投手・水野雄仁さん、昭和61年4月春優勝の主将・藤原浩史さん、同投手・梶田茂生さん

「蔦監督は新しい物好き。ウエイトトレーニングや水分補給も早くから取り入れていました。かっつ。負けたら高校に帰り、また辛い練習が待っていると思ったから粘った」と、甲子園での思い出を語りました。

「蔦監督は新しい物好き。ウエイトトレーニングや水分補給も早くから取り入れていました。かっつ。負けたら高校に帰り、また辛い練習が待っていると思ったから粘った」と、甲子園での思い出を語りました。

「蔦監督は新しい物好き。ウエイトトレーニングや水分補給も早くから取り入れていました。かっつ。負けたら高校に帰り、また辛い練習が待っていると思ったから粘った」と、甲子園での思い出を語りました。

「蔦監督は新しい物好き。ウエイトトレーニングや水分補給も早くから取り入れていました。かっつ。負けたら高校に帰り、また辛い練習が待っていると思ったから粘った」と、甲子園での思い出を語りました。

「蔦監督は新しい物好き。ウエイトトレーニングや水分補給も早くから取り入れていました。かっつ。負けたら高校に帰り、また辛い練習が待っていると思ったから粘った」と、甲子園での思い出を語りました。

「蔦監督は新しい物好き。ウエイトトレーニングや水分補給も早くから取り入れていました。かっつ。負けたら高校に帰り、また辛い練習が待っていると思ったから粘った」と、甲子園での思い出を語りました。

「蔦監督は新しい物好き。ウエイトトレーニングや水分補給も早くから取り入れていました。かっつ。負けたら高校に帰り、また辛い練習が待っていると思ったから粘った」と、甲子園での思い出を語りました。

「蔦監督は新しい物好き。ウエイトトレーニングや水分補給も早くから取り入れていました。かっつ。負けたら高校に帰り、また辛い練習が待っていると思ったから粘った」と、甲子園での思い出を語りました。

「蔦監督は新しい物好き。ウエイトトレーニングや水分補給も早くから取り入れていました。かっつ。負けたら高校に帰り、また辛い練習が待っていると思ったから粘った」と、甲子園での思い出を語りました。

「蔦監督は新しい物好き。ウエイトトレーニングや水分補給も早くから取り入れていました。かっつ。負けたら高校に帰り、また辛い練習が待っていると思ったから粘った」と、甲子園での思い出を語りました。

「蔦監督は新しい物好き。ウエイトトレーニングや水分補給も早くから取り入れていました。かっつ。負けたら高校に帰り、また辛い練習が待っていると思ったから粘った」と、甲子園での思い出を語りました。

「蔦監督は新しい物好き。ウエイトトレーニングや水分補給も早くから取り入れていました。かっつ。負けたら高校に帰り、また辛い練習が待っていると思ったから粘った」と、甲子園での思い出を語りました。



▲先輩の講演を真剣に聞く在校生の皆さん

11月13日、創立100周年記念事業として「池高野球部レジェンド達の集い」蔦監督・池高を語る」と題した講演会が池田総合体育館で行われ、事前に聴講を申し込んだ住民や往年の野球ファン、在校生など約

800人が集まりました。講演したのは甲子園で活躍した野球部OBの皆さん。森本秀明さん、岡田康志さん、橋川正人さん、窪靖さん、畠山準さん、水野雄仁さん、藤原浩史

さん、梶田茂生さんの8名のレジェンド達で、蔦監督との思い出や池高生時代のエピソードを語りました。昭和57年夏に優勝したエースピッチャーの畠山さんは、「蔦